

一般演題 管理・運用 OP9-3

当院における高気圧酸素治療を中止，中断した症例の検討

○土手智敬¹⁾ 宮本和哉¹⁾ 門田 秀¹⁾ 長生浩輔¹⁾
長野準也¹⁾ 楠 勝介²⁾

[1) 済生会松山病院 CE 部
2) 済生会松山病院 脳神経外科]

【目的】

高気圧酸素治療（以降 HBO）を行う中で，様々な理由により治療の中止，中断を避けられないのが現状である。今回 HBO の中止，中断に大きく関わる要因について調査，検討を行った。また6年前（以降前回）にも同様の調査を行っているため，そのデータとの比較もあわせて行った。

なお中止は予定していた HBO を中止した症例，中断は HBO 中に治療を中断した症例とした。

【対象】

2018年4月から2024年3月までの6年間に HBO を行った257名（男性175名，女性82名，平均年齢66.8歳）のうち，中止した症例33例，中断した症例14例を対象とした。

また，前回は2013年4月から2019年3月までの6年間に HBO を行った256名（男性144名，女性112名，平均年齢65.5歳）のうち，中止した症例42例，中断した症例19例を対象とした。

【方法】

高気圧酸素治療データベースより HBO を中止ないし中断した症例を抽出し，その原因を電子カルテで調査した。

【結果】

HBO の中止率は13.0%であった（前回16.4%）。中断率は5.5%であった（前回7.4%）。

中止理由及び前回との比較を図1，中断理由及び前回との比較を図2に示す。

【考察】

HBO の中止の原因として，耳痛，耳閉感，体調不良，バイタル異常が多かった。治療を確実にを行うためには，治療前に患者の状態を把握し，治療の十分な説明をし，不安を取り除き，耳抜き訓練を十分に行う必要がある。HBO の中断の原因として耳痛，気分不良が多かった。治療前に十分な説明を行い，治療中にも患者の状態確認や声かけをして，治療を完遂する必要がある。

前回のデータとの比較では中止，中断いずれも症例数は減少傾向であった。背景として，担当技士の経験症例が増えたことや重症症例が減ったことが主な要因であると考えられた。耳痛症状は依然として多いことが判明したため，今後耳抜きに関する取り組みをしていく必要がある。

【結語】

HBO を中止，中断した症例について検討した。中止，中断ともに耳抜き不十分による耳痛症状が最も多かった。今後は耳抜きの指導を見直し，耳痛症状による中止，中断を減らしていきたい。

参考文献

一般社団法人日本高気圧環境・潜水医学会：第6版高気圧酸素治療入門 2017；pp121

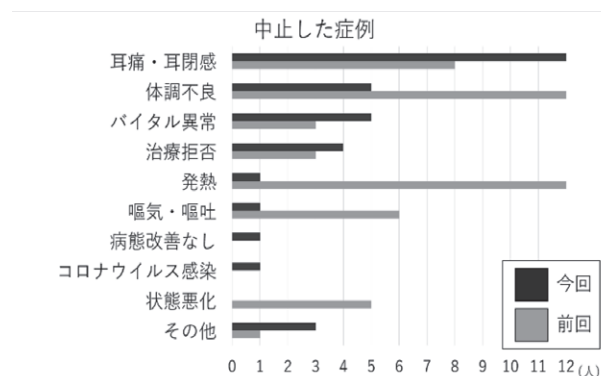


図1

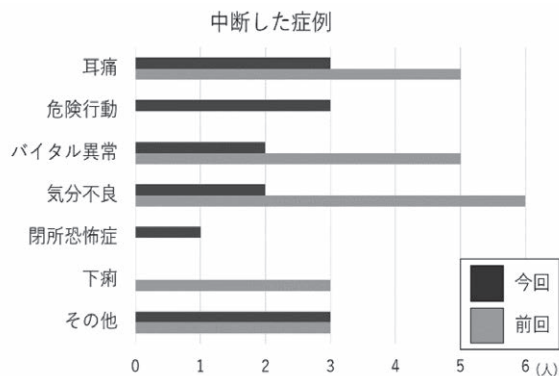


図2